

# みんな みんな

特定非営利活動法人

せんだい・みやぎNPOセンター 事務局通信

2002年 3月 5日 Vol. 26

## 人材の流動化と育成・輩出

2001年度は、当センターはじまって以来最大数の有給スタッフ(組織全体で24人、事務局最大11人)が勤務した年になりました。国の緊急雇用対策事業を受託したり業務量が増えたことで、大町事務局で新規スタッフが7人増加。スタッフはもちろんのこと、当センターを訪れるお客様も事務局に一步足を踏み入れて、「おおっ!」と驚かれる方も少なくありませんでした。

しかし、苦楽を共にしたスタッフらは期間雇用のためこの3月で退職。4月からはまた、ごちんまりした少人数の事務局に戻ることにになります。

加えて、仙台市市民活動サポートセンターの非常勤スタッフも大学を卒業と同時に当センターを卒業。支援者となって帰ってきてくれるのを楽しみにしたいものです。これと同時に、非常勤スタッフが2名新加入しました。大学で社会学を学んでいる視点を業務に生かしてもらい、積極的にNPO・市民活動団体に関わり、支援を行うことから多くの事を学んで欲しいと思います。

さて、4月からのせんだい・みやぎNPOセンターはどう展開するのでしょうか。継続事業に力を注ぐことはもちろんですが、申請した助成金は獲得できるのか、新規事業をどう展開するのか…そしてそれを支えるスタッフは……。

毎年大きく変動するNPOとこれを取りまく社会。さて、どんな春が訪れることや、なんだかわくわくします。

近くにお越しの際は、毎年様変わりする当センターにお立ち寄りください。

せんだい・みやぎNPOセンター  
事務局次長 遠藤智栄

### 内 容

巻頭エッセイ、みやぎ支援センターネットシンポジウム報告  
SSS実績報告、はみだしトーク、部会報告、合宿参加報告  
評価システム研究会報告  
BOOK、事務局活動報告 ほか



表紙イラスト 佐藤 友里

◆みやぎNPO支援センターネットワーク 公開シンポジウム 報告◆

民間のNPO支援センターは、なぜ必要なのか

さる2月1日、「みやぎNPO支援センターネットワーク」(\*)は、公開シンポジウム「民間のNPO支援センターは、なぜ必要なのか」を開催しました。行政施設・公設のNPO支援施設が各地にできる中、「民間」ならではの特性・持ち味とは何か！を熱心に議論することができました。

今回は、この内容について論点をわかりやすく整理しました。会員の皆さんも、このテーマに関してのご意見・ご感想をぜひお寄せ下さい。

■基調講演

「地域におけるNPO支援センターの役割と可能性～

さいたまNPOセンターの事例より～

(特活)さいたまNPOセンター  
理事・事務局長 西川 正さん

■西川氏の論点

NPO支援センターは、市民主体のまちづくりのための専門NPOとして、個別分野のNPOとはまた違った現場と機能をもっている。その現場を持つ私たちが、個々の分野のNPOや市民と協働することで、新しい価値をつくり出すことができる。そこで、私たちに求められている機能として3つある。

- ①コミュニティシンクタンク／暮らしの中の、NPOの現場の中にある知恵を社会的な合意とするための作業。
- ②マネジメントサポート／NPO特有の組織原理が最大限活かされるサポートの提供。
- ③ネットワーキング／現在と未来の社会を読み解き暮らしや活動の現場をふまえ、共有できる課題・キーワードを提示できる力が求められている。

□なぜ、民間の支援センターが必要なのか？

一言でいうと民間の支援センターもNPOである。NPOは次の社会を描く人たちだと思う。現制度の中で動いている行政と、基本的に違うスタンスをもっているはず。したいことがあるからNPOをつくる。ではそれは何なのか、ということがはっきりしている人たちでなければいけないと思う。なぜならば、行政は制度に基づいて動いていて、現行の価値観に基づく現行の多数決に基

づく制度によって動く。それは行政が基本的にやるべきことだから。民間がやれること、民間であることの意味は同時にNPOであることの意味である。基本的には問われていることは同じだと思う。これまで街の中に行政しかシンクタンクとしてなかったの、まちづくりセンターといわれていることは理解できる。もう一つ対抗する価値が必要だと思うし、それを形にしていくところが必要だと思う。

■パネルディスカッション

「宮城県内における

地域NPO支援センターの現状と可能性」

パネラー／木村正樹さん(いしのまきNPOセンター)、丸山勝寿さん(白石市民活動フォーラム)、小玉順子さん(古川NPO支援センター運営委員会)、加藤哲夫(当センター)

■論点

■【古川】古川NPO支援センターの設立は2000年6月。運営は、公募で集まったメンバーが運営委員会を結成して実施している。建物は古川市の施設で、年間50万円の維持管理費をいただいている。他の経費は運営委員会メンバーが手弁当で持ち寄りたり、会員に協力してもらっている。今は行政からの制約は少なく行動しやすい状況。地道に地域密着の事業を実施していきたい。今後は企業とNPOをつないだり、新たな寄付先としてNPOをPRしていく。仙台と古川のNPOを取り巻く地域状況は違う部分も多いが、参考になる部分については積極的に取り入れていきたい。

■【石巻】いしのまきNPOセンターは、1市9町を対象にした「石巻圏まちづくりデザイン会議」というま

※このネットワークは、宮城県内の5カ所の地域の民間NPO支援センターが、①機能と役割を充実させるための組織経営力を持つこと、②団体相互の人材と情報の交流、を目的に結成されたものです。

ちのシンクタンク機能を果たす団体を母体に2000年11月に20人の発起人が集まり立ち上がった組織。施設はもたず、組織としての活動を行っている。実施しているのは、主にソフト事業で講演会や勉強会、NPOの調査を実施している。石巻市に対しては、現在広域圏のNPOが使えるような支援施設の設置を求めており、来年度設置する方向で進んでいる。使いやすい施設について提言を続けたい。

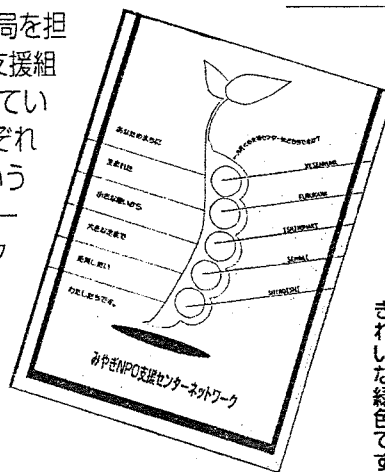
■【白石】白石市民活動フォーラムは、2000年10月にボランティア団体・NPOが16団体集まって設立し、白石市民活動支援センターの運営を行っている。この建物は白石市の施設で年間50万円の補助金をいただいている。当初は運営団体向けのサービスだったが、最近では広く市民に使ってもらえるようになってきた。今後は組織体制の整備と提供できる情報づくりに力を注ぎたい。

■【仙台】当センターは、NPO支援を通じたコミュニティのシンクタンク機能を持つ組織ということが設立4年を過ぎて認知されてきた。仙台市の施設である仙台市市民活動サポートセンターの運営については、いかに的確に運用しサービスの質を向上していくかに重点を置いてきた。行政との関係については、お互いの違いと役割を明確にして事業を実施してきた。今後はさらにサービスが可視化できるように取り組みたい。

民間と行政のNPO支援センターが各地にできる中、両者の関係としては、棲み分け、独自性のアピール、競合、などの場合がでてきた。民間はいかに社会的なビジョンという旗をかかげ価値を作り出せるかにかかっていると思う。また団体の成長につながる間接的な支援を行うからには、常に2~3歩先を見据え、今後必要な事に敏感に対処することが求められるだろう。

### ■ネットワークの事務局として

当センターがネットワークの事務局を担い気づいた事は、民設民営のNPO支援組織として、県内各地のNPOが求めているサービスを提供する体制をそれぞれに充実させることが実現できたという点。これからは行政系の支援センターでは出来ない、民間のネットワーク間でつかんだ情報に基づき、市民やNPOのニーズに素早く応えるサービスや、前例等に縛られない自由な発想による多様なサービス提供、先を見越したサービス開発などが出来ると思う。



きれいな緑色が完成です。

## ●ネットワーク参加団体のコメント

### ●(特活)いしのまきNPOセンター

事務局長 木村正樹さん

今回、自分たちと同じ活動をしている団体と交流が持て、たくさんの刺激を受けた。

自主事業と重なったり、スタッフが人数的に不足しているため、なかなか参加できなかったのが残念。来年度はやりくりをして毎回2人ずつは参加し、組織に情報や知識を還元していきたい。今回作ったパンフレットは、「中間支援組織」について外部の人たちに説明するにはとても役立つと思う。

### ●(特活)気仙沼まちづくりセンター

理事・事務局長 菅原昭彦さん

同じ県内で、NPO支援という同じ使命を持った仲間と交流できたことは、とても刺激になった。また講座は、自分たちが今後何を実現していくのかを考える、丁度よいきっかけとなった。組織としての方向性や組織自体の運営、地域での立場や役割を考える時間を持つことができ、これからの活動がますます楽しみになってきた。今回で終わることなく、今後も情報交換を続け、自分たちの活動に反映していきたい。

### ●白石市民活動フォーラム 事務局長 木村 孝さん

中間支援センターが情報を開示するには、良い機会だった。また、参加したスタッフにはとても良い勉強になった。今後の課題は、参加者が得た情報を他のメンバーにどのように伝え、共有していくか。それぞれの団体の温度差を感じたり、私たちの団体が他の団体と異なる組織であることをあらためて認識した。時間的に全部の回への参加ができなかったので、毎回、中間地の仙台で開催して欲しかった。

### ●古川NPO支援センター運営委員会

会長 三上 正弘さん

中間支援組織同士の連帯感を感じることができ、良かったと思う。今後私たちは、支援センターの役目として、二歩先を予測する力をつけなくてはならない。都市部と異なり人材は不足しているが地道に進むことが大切だと感じた。また、お互いの組織を理解し合うことにより、より自分の姿が見えるようになった。客観的に自分たちを評価することができたのは、大きな収穫だった。

ただ今、試験運用中！ サポート資源提供システム (2001年9月～2002年2月まで)

その数なんと、資金 **230万円**、中古PC **65台**、物品 **156点**！

●資源の提供に喜びの声！

一昨年5月から開発を進めてきた「サポート資源提供システム」(SSS)も、いよいよ、昨年秋から試験運用の段階に入りました。おかげさまで、多くの企業・団体、そしてNPOの皆様にご参加いただき、約半年の間に、物品・パソコン・資金など多くのサポート資源の仲介を行うことができました。また、NPOの側から、団体情報を提供いただき、社会一般に広く公開する「NPO情報ライブラリー」の整備も同時並行で進んでいます。

4月以降も、サポート資源の提供、ライブラリーの整備とともに継続して進めます。また今後は、サポート資源提供システムの運営(資金的・人的)基盤を整備しながら、新しいサービスをいかに生み出していくかが課題となります。地域の企業・団体等の皆様に様々な形で協力いただきながら解決していきたいと考えています。さらに、現在、NPO情報ライブラリーに集まっている情報を、インターネット上で公開するシステム開発も進めています。こちらもご注目を。

□物品提供

(株)岡村製作所・仙台市医師会、仙台青葉ライオンズクラブ、(有)菊地会計事務所、(特活)せんだい・みやぎNPOセンター、三井住友海上火災保険(株)

□中古パソコン提供

(社)宮城県情報サービス産業協会

□資金提供

宮城労働金庫、青葉ライオンズクラブ

(提供順、敬称略)

●東北巡回フォーラム好評開催中！

当センターと下記の支援センターは、2月から東北5カ所を会場に、SSS東北巡回フォーラム「企業の21世紀の生き残り策とNPO」を開催しています。フォーラムでは、SSSのノウハウと企業の新しい社会貢献とNPOとの連携について紹介。また今後の企業とNPOとの関係を「企業戦略」の面から語り合っています。各地域にとっても懸案のテーマだけに、今回の開催を機にさらに連携を深めるきっかけになりそうです。

□共催団体と開催日程、会場

- ・(特活)いわてNPOフォーラム21(岩手県盛岡市) 2月8日(金)、岩手県公会堂
- ・(特活)パートナーシップオフィス(山形県酒田市) 2月28日(木)、かんぼの郷酒田
- ・古川NPO支援センター運営委員会(宮城県古川市) 3月6日(水)、パレットおおさき
- ・(特活)ふくしまNPOネットワークセンター(福島県福島市) 3月8日(金)、福島市市民会館301会議室
- ・(特活)いしのまきNPOセンター(宮城県石巻市) 3月20日(水)、石巻専修大学

ほみだしトーク VOL.6

TVドラマで学んだ  
「NPO」も  
営業のノウハウが必要だ！

小説や映画から何かを学ぶことがあるように、テレビのドラマからも学ぶことがあるものだ。先日見ていたドラマは、優秀なデザイナーが設立した広告プロダクションの話で、ほかにはデザイナーと事務員の2人がいる。独立したものの仕事がなく、営業の末、最初に手に入れたのは小さな店の求人広告。ところが、「求人応募がないのは、広告の出来が悪いからだ」と苦情が入る。3人はうまく

対応が出来ない。なぜならこのような苦情は、前の会社では営業が担当していたのだ。そこで、営業のプロの必要性に気づき、営業担当者を雇用する。  
この話は、どこかNPOに通ずる。NPOも得意とする活動やサービスはあるが、その情報を求めている現場に的確に伝える事が出来るだろうか。多くのNPOの場合、自分たちの活動やサービスを広めるプロ・営業担当者の重要性を忘れてちである。というわけで、これからNPOは、サービス提供をしつつ営業も行なうことを意識して、理事や事務局スタッフは、全て営業担当者であると考えてみてはどうだろうか。

(紅邑 晶子)

■セナードサロン報告■  
第61回 第62回

今年最初のセナードサロンは、1月23日(水)に第61回「新年会2002」を開催しました。“最低でも、1人5枚の名刺を集めること”という命題のもと、ジャンルを超えた交流が活発に行われ、あちこちに新しいネットワークの芽が出たようです。また、初めての方が多く、予想以上に大盛況でした。今回は、皆さんに一品持ち寄りをお願いしたところ、多くの手料理や高級ワインなどが集まり、華やかな雰囲気でした。果たしてこの賑わいは、今年1年の当サロンを予言するものとなるのでしょうか?乞う、ご期待?!

第62回は、「仙台を変える次世代会議」と題し、2月7日(木)に行いました。1月の予言通り(?)ふたを開けると、就職を目前にした大学生から、仕事以外でボランティアをしている人、起業した人、民間企業の人、公務員、NPO職員まで総勢26名の多彩な顔ぶれが勢ぞろい。「生活の糧として働くのが大前提」「好きなことや、やりたいことを職業として実現したい」など、それぞれの職業観について熱いクロストークが展開しました。ここから見えたことは、仙台にはオモシロイ若者がいることと、このパワーが仙台をつくっていくのだ、ということ。仙台の次世代は期待できますよ!!

(第61回中務恵美、第62回田中聡子)

●次回 3月7日(木)、次々回4月7日(木)

テーマ「ワールドカップボランティアもてなし術交換」  
会場・仙台市市民活動サポートセンター/19時から

部会報告

■PONPO-NET■  
第12回 2/4

第12回では、今年度の成果と課題をもとに、今後の方向性を話し合いました。

その結果、PONPO-NETの社会的役割は、非営利団体と企業と個人が出会い、交流・情報交換する場(プラットフォーム)であること、その機能は、①サロン機能(多様なメンバーが気軽に出入りできる出会いの場)、②プロジェクトを生み出す機能(力を結集して地域で動く力)であることを確認しました。

また、PONPO-NETらしい利点は、多様な職種の企業・多様な分野の市民活動のメンバーが集まり、各々の現場で経験した新鮮な視点や価値観を共有し合うことによって、その視点を膨らませてくれることを共有しました。

そして、来年度のPONPO-NETの方向性・目標は、人のにぎわいを生み出すサロン機能を基本として、その中で生まれてくる話題やアイデアをふくらませて、地域に対して何か1つでもアクションを起こし、地域からの認知を目指すこととなりました。

今回は、PONPO-NETのキャッチフレーズと来年度の具体的なプロジェクトを考えます。

(松尾敏行)

●次回:4/10(水)18時30分から

東北NSソリューションズ(株)会議室にて

会議室提供・東北NSソリューションズ(株)

合宿でみっちり学んできました!

第4回「NPOマネジメント」編集協力委員会合宿

1月11・12日仙台市内で開催された「第4回『NPOマネジメント』編集協力委員会合宿」(主催:「I-HOE」人と組織と地球のための国際研究所)に参加した。

この合宿は、「I-HOEが発行している『NPOマネジメント』」の誌面の充実を目的として、編集協力委員と運営力の向上に意欲の高いNPOの代表者や事務局長が集まり、直面する課題について学びあい提案する場として開催されているものである。

今回のテーマは「NPOの事業開発」を考える力を鍛える。1日目は作業を通して自分の考える力を試し、2日目には具体的な事業展開プランを作成した。

参加して気づいたのは、代表・事務局長レベルの方々の事業プランは、数年後の先を見通して考えられていて、計画内容は実行性の高いものであったのに対し、私の事業プランは目の前のことしか考えておらず、実現性の低いものにすぎなかったということだ。自分に足りない視点を痛感した。また今後事業に活かしていきたい手法も多く、「計画の6W3Hに沿って事業のテーマ・ニーズ・手法・資源を書き出す手法」(すぐにサポートセンターの来年度新規事業を考えるのに使った)やファシリテートの仕方など多くのお土産をもらった合宿であった。

(中津涼子)

評価システム研究会 報告

パートナーシップを  
チェックしてみよう!

先日、「評価システム研究会」の国際シンポジウムが開催され、ゲストの一人、企業・行政・NPOのコンサルティングをしているバレリー・グラフさんからはNPOにおけるパートナーシップ評価の話伺った。

彼女は、パートナーシップを次のように分類している。

- ①協力(コ・オペレーション)：一番ゆるい形の関係のことで、リスクや投入する資源が少ないもの。
- ②協調(コ・レイトン)：少しリスクが増え、ジョイントでイベントをするようなケース。
- ③協働(コ・ラボレーション)：リスクが大きく、双方のスタッフが協力して1つのプロジェクトを動かす。

このいずれかを組む場合、お互いがどれだけの信頼をおいているかを評価し、また、自分たちは

どのパートナーシップの状況なのかを確認することが重要だと述べている。

また、パートナーシップを図る指標として、

- ①お互いがミッションを共有しているか
- ②お互いがその事業をやりたいと思っているか
- ③お互いがパートナーシップにどれだけ実績があるか
- ④パートナーシップについてお互いにどういう考えを持っているか
- ⑤パートナーシップに限らず、どうの実績があるか(どれだけの能力があるか)
- ⑥パートナーシップにどれだけ貢献したいと思っているか
- ⑦団体のリーダーシップのみならず、強調しながらのリーダーシップを組めるか

の7項目をあげている。

パートナーシップという言葉がNPOの周辺で飛び交う今日この頃、あなたの団体のパートナーシップチェックをしてみませんか?

(研究会メンバー 紅邑晶子)

BOOK

社長物語

薄井 ゆうじ 著

講談社  
本体 1800円+税

「これで残りの人生消化試合だよな」。

去年の春、私と共に就職活動を終え、会社員となる友達とこんなことを話していた。

楽しく自由な学生時代もあと一年。その後は様々なしながらみの中で、好きでもない仕事を延々と続けていかなければならない。主人公の森田もそれがいやでフリーランスで仕事をしてきた。だがなぜ、その自由を捨ててまで社長となり会社を作ったのか。

「防衛と攻撃のため」。会社を作るにあたって、これが森田の出した理由である。何の保証もない自分や仲間たちを会社という組織のなかで守り、フリーのままでは請け負えないような仕事も手がけていく。だが、経営が軌道に乗り、メンバーが増えるにつれて森田の姿勢は「防衛」に傾いていく。社長という肩書きにとらわれ、自分は好きな仕事もできず、ただ責任だけを一人で抱え込んでいく。徐々

に古いゴムのように柔軟性がなくなり、崩れかけた人間関係の中で一人ずぶずぶと沈んでいく森田の姿は、読んでいてじりじりさせられる。

ある目的のために、人が集まる組織を作るという点では会社もNPOも同じである。またどちらにおいても忘れてはならないのは、「何のために会社を作ったのか、自分はその中で何をやりたいのか」結局そのことなのではないだろうか。社長という立場は責任もあり、社員や組織のことも考えなければならぬ。しかしそのような「型」をみずから作り、自分をそこにはめ込んでしまったことが森田という人間と、その会社の魅力を失わせる原因になってしまったようだ。

自分がなぜ組織を作ったのか、または作るうとしていくのか。読み進めるうちにそれを再確認できるのではないだろうか。(SSC非常勤スタッフ 工藤叶夢)

## ■事務局/自主事業関連

- ・理事会 (第31回1/24 第32回2/21)
- ・仙台市民活動サポートセンター全体ミーティング (12/26 1/9・16・23・30 2/6・13・20)
- ・事業・運営会議 (第29回:1/7 第30回:1/22 第31回:2/7)
- ・センター会議 (12/26 1/30)
- ・セナードサロン「新年会2002!~ネットワークで新たな力を生み出そう!~」[仙台を変える次世代会議] (1/23 2/7 紅邑・遠藤・田中・中務)
- ・経営相談 (1/24・2/18 加藤)
- ・PONPO-NET「今後のPONPO-NETについて」(2/4 中津・松尾)
- ・サポート資源提供システム東北巡回フォーラム<盛岡> (2/8 大滝・針生・紅邑・遠藤)
- ・スタッフ面談 (12/27・1/8・15・28)

## ■NPO/企業関連

- ・未来博の部屋オープニング記念フォーラム/主催: 会津NPOセンター (12/22 紅邑)
- ・プロジェクトコーディネーター講座/主催: 一新塾 (1/9 加藤)
- ・NPOマネジメント合宿/主催: I I HOE (1/11・12・13 加藤・紅邑・青木・遠藤・田中・中津)
- ・地域カウンセラー養成講座/主催: 地域カウンセラー養成プログラム実行委員会 (1/13・14 加藤・紅邑・青木・遠藤・工藤)
- ・NPOマネジメントセミナー/主催: 広島県 (1/17・18 加藤)
- ・シンポジウム「地域ネットワークの処方箋~連携から協働へ~」/主催: 市民セクターよこはま・横浜市社会福祉協議会 (1/25 加藤)
- ・デジタルコミュニティスクール市民/社会人向け遠隔授業「市民が創る新しい社会像~NPOの活動から見えてくるもの~」/主催: DCs地域情報化推進センター (1/26 加藤)
- ・講演「せんだい・宮城におけるNPOの状況」/主催: 仙台冠ロータリークラブ (1/30 加藤)
- ・第5回講座<仙台編>/主催: みやぎNPO支援センターネットワーク (2/1・2・3 加藤・紅邑・青木・遠藤)
- ・全国ボランティア研究集会・岐阜集会/主催: (社)日本青年奉仕協会 (2/9・10・11 加藤)
- ・評価システム研究会例会 (2/13 加藤・紅邑)
- ・いわき市マネジメント講座/主催: 市民活動セミナー実行委員会 (2/14・15 加藤)
- ・MISA情報交換会 (1/29 高田)

## ■自治体関連

- ・岐阜県コミュニティ担当者研修会/主催: 岐阜県県民生活政策課 (12/21 加藤)
- ・みやぎ地球市民すくすく計画2001/主催: 宮城県教育委員会 (1/15 紅邑・田中)
- ・政策研修/主催: 国土交通大学校 (1/16 加藤)
- ・市民活動入門講座/主催: 仙台市・地域振興課 (1/18・25)
- ・環境学習ステップアップセミナー/主催: 仙台市・環境計画課 (1/19 加藤・遠藤・高橋)
- ・市民活動団体専門セミナー/主催: 高松市ボランティア・市民活動センター運営委員会 (1/20 加藤)
- ・NPOと行政とのパートナーシップ実践講座/主催: 香川県・高松市 (1/21 加藤)
- ・住民協働ワークショップ/主催: (財)ふくしま自治研修センター (1/23・2/5・6 加藤)
- ・都心居住研究会/主催: 仙台都市総合研究機構 (1/25 紅邑)
- ・大崎広域圏地域づくりフォーラム/主催: 大崎広域行政事務組合 (1/29 加藤)
- ・クリーン仙台推進員研修/主催: 仙台市・リサイクル推進課 (1/31 加藤)
- ・市民活動レベルアップ講座/主催: 仙台市・地域振興課 (2/8 加藤)
- ・中間支援組織の現状と課題に関する研究会/主催: 内閣府 (2/12 加藤)
- ・NPOマネジメント実践講座<気仙沼>/主催: 宮城県 (2/19・20 加藤・紅邑・青木・中務)

## ■相談、ヒアリング関連

- ・視察: 三重県生活部NPO担当 一見さん、みえ市民活動ボランティアセンター 小林さん来訪 (1/9 加藤・高田)
- ・NPOふくおか 加留部さん、福岡市役所 牧園さん来訪 (1/10 加藤)
- ・NPOハウジングコンシュルジュ来訪 (1/16 紅邑)
- ・取材: 毎日新聞社 野口さん (1/19 加藤)
- ・視察: 千葉県NPO活動推進検討委員会部会 (1/28 加藤)
- ・福島県環境政策課 渡辺さん、大松さん来訪 (1/31 加藤)
- ・ヒアリング: 創童舎 (1/31 紅邑)
- ・ヒアリング: (協)プランニングネットワーク東北 (2/12 加藤・紅邑・高田)
- ・視察: 都岐沙羅パートナーズセンター 14名来訪 (2/14 紅邑)

## サポート・ご協力 ありがとうございます

### ●平成13年度会員 (五十音順、敬称略、2001.12/21~2002.2/21)

(新規)ちば市民活動・市民事業サポートクラブ、田中秀奉、萩原なつ子

(継続・個人・正会員)黒澤学、庄子平弥、高橋一夫

(継続・団体・正会員)茨城NPOセンター・コモンズ

(継続・準会員)枝松芳枝、桜井勤、野澤タキ子、三浦隆弘、宮城県麗人会赤十字奉仕団

### ●平成12年度会員

(継続・個人・正会員)穴澤鉄男

### ●ボランティアスタッフ (五十音順、敬称略)

(事務局)細野泰志、本郷正武

### ●企業・団体協力 (五十音順、敬称略) 岡元タイル(事務局スペースを社会貢献価格にて)、エルネット仙台(IT事業のサポート)

東北NSソリューションズ(PONPO-NETの会議室を無料提供)、富士ゼロックス(カラーコピー機を社会貢献価格にて)

## 催事・サポート案内

### ■センダードサロン

今後の開催日時をお知らせします。手帳にチェック!

3月7日、4月11日、5月9日、6月6日、いずれも木曜日

開始: 19時~ 参加費: 500円

会場: 仙台市市民活動サポートセンター

### ■サポート資源提供システム

小中学生向けの学習辞典92冊を提供(英和、和英、国語、漢和、漢字など)、提供: (株)ベネッセコーポレーション東北支社様、応募締切: 3月14日(木)

### ■評価システム研究会フィナーレ

NPOの「事業評価」「組織評価」「協働評価」についての調査・研究の成果を発表します。

日時: 3月16日(土)13時~17時

会場: 三重県アスト津3階

参加費: 2000円 主催: 評価システム研究会

申し込み: 評価システム研究会 TEL042-359-8605

## 会員の方へ

### ■情報ライブラリー開設!!

当センターでは、NPO・市民活動団体の皆さんから活動に関する情報をお預かりし、企業や社会に広く公開・発信します。企業や市民と一層連携を図り活動を広げましょう。お問い合わせ下さい。



## せんだい・みやぎNPOセンター

〒980-0804 仙台市青葉区大町2-6-27 岡元ビル4F

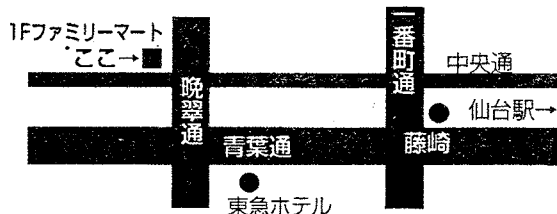
tel 022-264-1281 fax 022-264-1209

E-mail minmin@minmin.org

http://www.minmin.org/

大好評! ホームページ! 更新中!

### ■岡元ビル4F 仙台駅から徒歩15~20分



## みんみん編集後記

■サポート資源提供システム・東北巡回フォーラムで酒田に行った。NPO法人パートナーシップオフィス事務所での交流会で、なぜか、指のオイルマッサージをしていただきすっかりリラックス。短時間でも、NPO活動の癒しタイムは必須だと思った。(紅邑)

■相変わらず『んぼ(NPO)って何?』の「んぼ星人」との遭遇が多く、NPOの広報活動を真剣に考える今日この頃。そういう意味でも、センターの広告塔「みんみん」の今後の展開が楽しみです!! (門間)

■皆さん、「せんだいセントラルパーク」構想をご存じですか。東北大学(2001年度で退官されました)の大村先生らが都市をデザインし提案しているものです。実は私、この構想該当地区に居住中。居住理由はこの構想でうたわれていることとぴったりなのです!!一緒にこの構想を応援しませんか?(遠藤)

●編集部にご感想をお待ちしております。